

追加資料 井上委員からの意見

資料 1 - 3 : 生活環境調査報告書関係

- 資料 1 の 16 ページ、環境モニタリングの評価（総括）の内容で概ね異存ありません。
- 観測井戸 No.5 や H16-11 における温度上昇とガス発生については注意深くその推移を見守っていく必要があると思います。

資料 5 : 汚染物質立体的分布分析結果

- 今回の結果を踏まえ、11 ページの地下水流向の予想については概ね同意致します。
- 今後の取り組みで、なぜ観測井戸洗浄が提案されるのか理解できません。
- 12 ページに記載の「今回の調査で、観測井戸の底部付近で電気伝導率の高い傾向が確認された」とありますが、EC 値が底部で高くなっている井戸は一部のみでしかもその変化は大きくないです。洗浄対象に挙げている電気伝導率が特に高い井戸では、むしろ底部の EC 値は低くなっているものの方が多いです。
- 井戸洗浄の目的は、①スクリーン部の有孔管の穴がスケール等で閉塞されて、周囲の地下水が井戸に入ってこない、②井戸の底部に沈殿物が堆積している、のいずれかを解消するためと思われますが、①は資料 6 「観測井戸への空気注入」が行われていることから有孔管の閉塞は起きていないのではないのでしょうか？②は井戸底部まで EC 測定できているので、問題にはならないと思います。
- 井戸洗浄そのものを否定するわけではないですが、それによって対象井戸の測定結果が変わるものとは考えにくいです。
- 10 ページの H16-3-H16-13 測線の図において、H16-13 の井戸の左下側に EC>200 のエリアが広がるという解釈に疑問があります。むしろ H16-13 周辺の EC の高い領域の少なくとも下部の方は難透水層に囲まれており、その限定された部分をポンプ&トリートメントなどで浄化することにより、この周辺の汚染を浄化できるのではないか、それによってそくなくともこのエリアは最終処分場の廃止基準に該当する範囲に持っていけないかと思えます。
- もちろんそのためにはさらに詳細な検討が必要で、例えば以下のような視点で既存の水質データを検討いただくと良いのかと思います。
- 各井戸の EC の値と主要陰イオン (Cl, SO₄, HCO₃, NO₃) の濃度の関係を整理して、井戸の間関係性や地下水の流れを検討すべきかと思えます（本来は主要陰イオンと主要陽イオン (Na, K, Ca, Mg) の値を使ってヘキサダイアグラムを作り、井戸ごとの水質の傾向を整理すると良いのですが）。